

病防第82号
平成25年9月10日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報について（送付）

このことについて、平成25年度病害虫発生予察注意報第2号を公表しましたので、送付します。

注 意 報

平成25年度病害虫発生予察注意報第2号

農作物名 水稻（早植え・普通期水稻）
病害虫名 トビイロウンカ

- 1 発生地域 早植え・普通期水稻栽培地域
- 2 発生時期 9月中旬以降
- 3 発生程度 多
- 4 注意報発生の根拠

- (1) 9月3～5日に県内50地点で払い落とし調査を行った。
- (2) 6月上旬以前に移植された早植え水稻10地点の10株当たり成幼虫数は、199.1頭で、昨年101.3頭、平年59.5頭(多発年4カ年の平均)より多く、一部のほ場では、坪枯れの発生を確認した。また、要防除水準(収穫30日前:30頭/10株)を超えるほ場が6ほ場確認された(図1)。
- (3) 6月中旬以降移植の普通期水稻40地点での10株当たり成幼虫数は18.9頭で、昨年4.7頭、平年32.7頭(多発年4カ年の平均)と平年よりはやや少ないものの、9月中～下旬並の発生であった。
なお、要防除水準(収穫30日前:30頭/10株)を超えるほ場が5ほ場確認され、今後、坪枯れの発生が懸念される(図2)。
- (4) 早植え水稻、普通期水稻での発生ほ場率は、ほぼ100%に達していた(図1、図2)。
- (5) 9月6日に福岡管区气象台が発表した九州北部地方の気象予報によると、向こう1ヶ月の平均気温は高く、トビイロウンカの増殖に好適な条件である。

5 防除対策

- (1) 中山間地域の早植え水稻で密度が高いほ場では坪枯れの拡大が懸念されるので、特に注意が必要である。
- (2) 収穫間近の早植え水稻で農薬を使用する際は、特に、収穫前使用日数に留意する。
- (3) 発生量は地域やほ場あるいは移植時期で異なるので、防除適期に天候不順等により防除が実施出来なかったほ場では、要防除水準(収穫30日前:30頭/10株)を超える場合は直ちに防除する。
- (4) 坪枯れが発生したほ場では、可能な限り収穫を早め、坪枯れに伴う減収被害の拡大を防ぐ。収穫まで期間がある場合は、直ちに防除する。

- (5) 飼料用米等の多肥栽培や栽培期間の長い晩生品種では、多発する傾向があるので注意する。
- (6) 粉剤及び液剤は、トビイロウンカが多く生息する株元に付着するよう散布する。
- (7) トビイロウンカは、イミダクロプリド剤やBPMC剤に対する感受性が低下している。
- (8) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使い、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守する。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行なうなど、危害防止に努める。

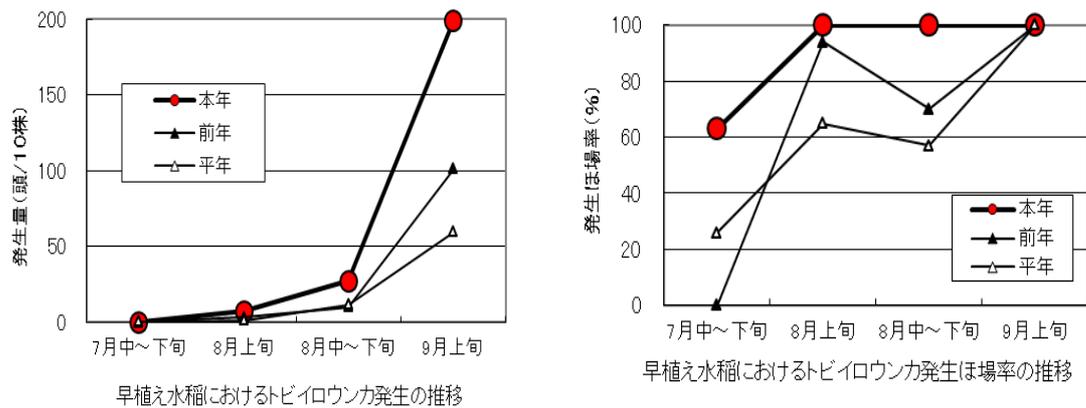


図1 早植え水稲での調査結果 (左：成幼虫数、右：発生ほ場率)
 ※9月上旬調査の平年値は多発生4ヵ年の平均。

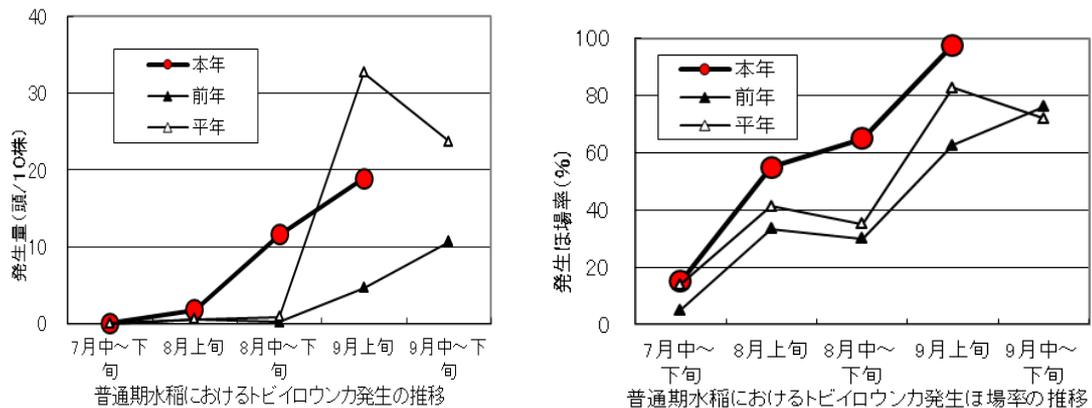


図2 普通期水稲での調査結果 (左：成幼虫数、右：発生ほ場率)
 ※9月上旬調査の平年値は多発生4ヵ年の平均。

問い合わせ先
 熊本県農業研究センター
 生産環境研究所(病害虫防除所)
 山口
 TEL: 096-248-6490
 e-mail: yamaguchi-t-dj@pref.kumamoto.l